

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価 (3月24日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	○新学習指導要領実施に向けた着実な準備と円滑な導入  ○「自ら未来を切り拓く人材」の育成に向けた継続的で一貫した意識付け・動機付けの実践	①新学習指導要領の円滑な実施を単位制の趣旨を生かして取り組む。 ②プログラミング教育を充実させ、1人1台端末などICT活用による教育の推進に取り組む。	①希望進路の実現に向けて3年間の履修計画を新入生に立てさせる。 ②研修、研究授業の充実を図り、すべての教科でプログラミング教育の推進に取り組む。	①新入生の履修計画作成にあたって、履修指導は適切に行われたか。 ②十分な研修、研究授業は行われたか。論理的思考力、問題解決力、ICT活用能力は育めたか。	①履修計画、指導については概ね適切に行うことができた。 ②プログラミング教育推進に向けた取組を計画通り実施し、能力の育成は概ね達成された。	①新指導要領に基づく履修指導を継続し、講座編成の工夫を図る。 ②プログラミング教育の理解度を一層高めるため、職員研修等を充実させる。	①新指導要領の研究がしっかりなされ工夫されているようだ。 ①達成状況の時間軸が明確でない。 ②具体的に達成された内容が知りたい。先生方の端末の使い方が気になる。 ②データサイエンス等取り入れ Society5.0 実現の視点も必要。	①1年次生の履修指導は各担任とも教育課程の進行をしっかりと踏まえて早くから指導できた。次年度の講座編成もうまく収まった。 ②職員研修や公開研究授業を通じて職員の理解の向上は概ね達成され、また生徒の関心・意欲やスキルの向上も示された。次年度に向け、新たな単年度計画の策定が必要となる。	①次々年度の講座編成に向けて一層の工夫を図る。履修指導については、生徒の興味・関心や希望進路に応じてきめ細かく行っていく。 ②一人一台端末の有効利用に向け、職員が手軽に活用できるような環境整備する。プログラミング教育の推進に向け、職員研修の工夫を図る。次年度開講の情報Iとタイアップして研究する。
2 生徒指導・支援	○様々な生徒の状況把握に努め、個々に対応した支援教育の充実を図る。 ○行事等を通じて豊かな心と健やかな体を育む。	①コロナ禍での生徒状況に留意し、必要な指導や支援に取り組む。 ②感染状況に配慮し、持続可能な活動となるよう支援する。	①職員全体で生徒情報を共有し、多様化する課題に対処する。 ②感染防止の観点から行事等を工夫する。新たな活動の構築も図る。	①教育相談チームを中心にケース会議等を通じた情報共有、課題対応は進んだか。 ②状況に応じ、前例にとらわれずに生徒主体の活動が進められたか。	①支援を要する生徒のケース回議を数回開催し、情報の共有化が深められた。 ②生徒主体で計画、実行されたが、見送られた取組も多かった。	①引き続き、生徒情報の共有化と組織的な生徒対応に努める。 ②感染防止を図りながら、生徒主体で創意工夫して実施する。	①コロナ禍ではあるが最近一部回復も見られ、学校で楽しそうに過ごしている生徒の姿が見られてよかった。 ①家でパソコン漬け、ゲーム漬けになっている生徒がいないか心配である。	①コロナ禍の長期化でカウンセリング希望生徒数が高止まりする中、支援を必要とする生徒のケース会議を重ね、外部の専門家も活用して対応を図ってきた。 ②体育祭、文化祭、合唱祭等の生徒会行事を生徒主体で実施できた。コロナ禍による制限、規制が未だに残り、多くの調整を要した。	①生徒情報の共有化、組織的な対応に向けて、教育相談コーディネーターを中心とした支援体制の充実を図っていく。 ②職員主導で必要な感染防止対策を講じつつ、ポストコロナ下の生徒会行事等を生徒主体で企画、運営させるため指導の工夫を図る。
3 進路指導・支援	変化が速く予測が難しい社会を生き抜くためのキャリア観の育成に向け、意識付けを徹底し、進路指導の充実を図る。	生徒のキャリア観の育成に向けて指導を充実させるとともに、生徒が主体的に進路選択できるような十分な機会を提供する。	3年間を見据えた計画に沿って段階的にキャリア支援を実施する。コロナ禍に配慮し、十分な情報提供や効果的なガイダンスを実施する。	キャリア観育成に向けた指導は適切だったか。進路実現に向けた各種プログラムが効果的に実施され、進路選択に役立てることができたか。	キャリア観の育成、各種進路指導プログラムはいずれも概ね計画どおり実施できた。	外部講師によるガイダンスを通じて将来について考えを深める機会を増やす。適切に情報提供し、多様化する各入試方法に応じて適切に指導する。	・総合型選抜への対応、12月までに進路が決まった生徒への対応はできているか。 ・成人年齢引き下げの対応は大学も深刻である。高校でもプログラムに加えて取り組んでほしい。	大学入試改革により入試の多様化が進んだところにコロナ禍が長期化し、今年度もガイダンスの工夫や細やかな指導で対応した。夏季インターンシップは今年度ほぼ復活し、相応の参加があった。新教育課程が開始され、キャリアプログラムの見直し・充実が必要となっている。	外部講師によるガイダンスを豊富に用意し、また各種プログラムの充実を図り、自己の将来について主体的に考える機会を広く設ける必要がある。 来年度1、2年次生に導入する学習支援サービスを進路選択にも活用させ、多様化する各入試に応じた指導の充実を図る。
4 地域等との協働	生徒の社会参画の意欲向上に努め、地域等との幅広い連携を推進する。	生徒に地域参画の意義を実感させられるよう、持続可能な連携・協働の在り方を工夫する。	地域の資源やニーズ、課題を踏まえて活動を計画、実施する。活動を適切に評価、検証し活動の継続を図る。	資源やニーズ、課題を地域と共有できたか。活動により意識向上が図られ、参加の広がりにつながったか。	地域のニーズ、課題の把握やその共有は概ね達せられた。地域活動を通じた生徒の意識向上も一程度図ることができた。	引き続き生徒の参加意欲を引き出す取組を工夫する。3世代交流の今後の在り方は令和6年度実施に向けて検討する。	・栄高校は地域の認知度も高く、今後も様々な取組みをぜひお願いしたい。	地域参加型のイベントはコロナ禍の影響で今年度も中止、中断、見送りが相次いだ。学校運営協議会等を活用して地域のニーズや課題を的確に把握し、生徒の地域貢献に向けた意欲向上を図っていく必要がある。	健全な地域貢献、地域参画の意識が育まれるよう、持続可能な連携・協働のあり方を引き続き検討していく。インターンシップ、地域ボランティアへの参加促進に向けて、積極的に情報提供を行っていく。
5 学校管理 学校運営	○事故・不祥事防止に向けた継続的な取組の実施  ○教員の働き方改革の実践に向けた学校管理体制の追求	①コロナ禍での衛生管理を徹底し、ゼロプログラムに則った不祥事防止に組織的に取り組む。 ②業務の効率化を進め、タイムマネジメント意識の醸成に取り組む。	①年次、グループで感染防止対策の徹底に努める。不祥事防止研修を職員で分担して実施する。 ②業務の効率化や業務時間の見直しに職員が協力して取り組む。	①日常や行事時の感染防止が十分図られたか。時期、課題に沿って研修が企画、実施されたか。 ②ペーパーレス化等は進んだか。時間外労働の削減は図られたか。	①感染防止対策の徹底、不祥事防止研修の取組とも概ね計画どおり実施できた。 ②ペーパーレス化は進まなかった。業務効率化の工夫は図られた。	①感染防止対策は、引き続き校内の衛生管理を徹底し、生徒に予防意識向上を促す必要がある。 ②ICTを活用して業務の効率化や時間外労働削減を粘り強く進める。	②どこにペーパーレス化が必要なのか気になる。企業は必要な所はばっさり切る。 ②ペーパーレスはリソースの裏付けが必要。 ②ペーパーレス化は職員の感覚、マインドの問題でもある。 ②アイデアは手で書くなど、うまく使い分けるといい。	①コロナ対策予算の活用で感染防止対策の充実が図れた。生徒の予防意識向上に向けた働きかけを強化する必要がある。不祥事防止に係るグループ主催の研修は昨年度と比べて減少した。 ②ペーパーレス化が進まなかった原因を究明する必要がある。引き続き、時間外労働削減、業務効率化を粘り強く進める。	①コロナ対策予算で充実したインフラの有効活用を努める。生徒の感染予防意識の向上に向けて点検、啓発を進める。グループ主催の不祥事防止研修の充実を事故防止会議の議題とする。 ②ペーパーレス化の可能な分野を精査し、組織的に進めていく。業務の効率化に向けて、成果を上げた各グループの取組を共有する。